

## モンゴル国ゾド対策に向けた地方牧畜業体制改善支援計画調査

(調査期間：2003年3月～2006年1月、担当業務：畜産/草地管理)

### 調査背景

モンゴル国において、農牧業は基幹産業の一つであり、そのなかで遊牧的牧畜は重要な役割をはたしている。しかし、近年厳冬期に家畜が大量に死亡する「ゾド」被害が連続して発生し、遊牧的牧畜に深刻な打撃をあたえている。ゾド被害が顕在化する背景には複雑な要因が存在するとされるが、その一因として、1. 市場経済以降牧民の家畜私有化を認めるも、国家による水供給が停止されたこと、2. 従来家畜への水供給手段として整備されていた機械式井戸の稼働率が低下し、限られた稼働井戸周辺への家畜の集中をまねき地域的にアンバランスな草原利用におちいり牧養力を低下させていること、があげられる。

### 調査概要

本調査では、草原の持続的利用を目標に、上述の地域的な過剰利用傾向を緩和させるため水源整備の M/P 策定がおこなわれた。調査団のおもな構成は、総括、畜産/草地管理、水文地質、社会経済、住民組織、GIS などである。ひきつづき現在、水源周辺での実証モニタリング調査が実施されている。また、並行して、カンミアに依存しない畜産物販売体制確立の可能性ならびに家畜ファンドなど牧民の生活水準の向上・改善にむけた実証プロジェクトの立ち上げが模索されている。

### 担当事項

- 過放牧の現況および牧養力を把握し家畜頭数管理のありかたにかかる検討。
- 草原の利用・管理ならびに調査手法の技術移転。
- 畜産物出荷共同集出荷の可能性の検討、実施。

